中世城郭の楽しみ方と春日の山城

山崎　裕太
（神戸大学大学院人文学研究科博士課程後期課程１年）

〇城の基本知識
・縄張（なわばり）：城の防御構造物の配置・設計。
・曲輪（くるわ）：本丸、二の丸といった、城内の区画となる平坦地。
・切岸（きりぎし）：斜面を削ったり盛ったりすることで造成した急斜面。
・土塁（どるい）：防御のために土を盛ったり削ったりして造成した土手。
・虎口（こぐち）：曲輪の出入り口。枡形虎口、食い違い虎口、平入り虎口、など。
・馬出（うまだし）：虎口を守るために、堀を渡った対岸に設けた小曲輪。
・堀切（ほりきり）：尾根を遮断する堀。
・竪堀（たてぼり）：斜面を下に落ちる堀。
・横堀（よこぼり）：山城で、曲輪の山腹・裾を囲うように伸びる堀。
〇縄張図を作成する
・兵庫県 CS 立体図の元データ（https://web.pref.hyogo.lg.jp/kk26/3dgeo.html）
　→G 空間情報センターのサイトにアクセス。
・CS 立体図を簡単に閲覧できるサイト「open-hinata」
（https://kenzkenz.xsrv.jp/open-hinata/?s=y4LoN6）
　→「背景」をクリック→「自然、立体図、地質図、標高図等」をクリック→閲覧したい都道府県の CS 立体図・赤色立体図をクリック（目のアイコンとネジ？のアイコンの間のボックスにチェックを入れると地理院地図と合成されるため、目的地点を探しやすい）。
・3D スキャンできる iPhone アプリ「Scaniverse - 3D Scanner」
〇古文書を自分で読んでみたい方向けの史料集
・『兵庫県史　史料編』中世 1～9 巻（丹波市周辺は 3 巻、国立国会図書館デジタルコレクションの送信サービスで閲覧・全文検索可能）
・藤田達生・福島克彦編『史料で読む戦国史 3　明智光秀』（八木書店、2014 年、明智光秀発給文書）
〇古文書
・（天正 3 年〈1575〉）11 月 24 日付け吉川元春宛八木豊信書状（「吉川家文書」、『兵庫県史史料編９』より転載）
（3 条目、書き下し）信長へ出石・竹田より、連々懇望をなすに依り、惟任日向守丹波に至りて乱入し候。即ち荻悪竹田表より引き退かれ、黒井城に楯て籠もられ候。かの城の廻りに、十二、三ヶ所相陣を付け置かれ候。この内近きは城々尾崎に一陣を執り堅められ候。兵粮等相続あるべからず候間、来春は一途たるべき様、風聞候。丹波国衆過半、残す所無く惟日に一味し候。
（現代語訳）出石城・竹田城の敵が織田信長に助けを求めたので、明智光秀が信長の指示により丹波に乱入してきました。それを受けて荻野直正は即座に竹田城方面から引き返して、黒井城に籠城しました。

明智方は黒井城の廻りに 12，3 か所陣所を作っています。そのなかでも近い陣は黒井城の尾根先に作られています（？）。兵粮などは持続する見込がないため、来春には荻野が降参して丹波が統一されるだろうという噂が立っています。丹波の国衆（地域の有力武士）の大半は、もれなく明智に味方しております。

七三　八木豊信書状（切紙）

別帋御返札拝見、快然候、頃日躰、定従方々雖可被
申候、承及通、以一書令申候、
一就御下、若桜要害（因幡国）、殊外相窕候、殊郷内百性等（姓）、依
罷出、本意之様被申触事、可有御推量候、雖然、御
人数等被残置儀候間、珍行無之候、可御心安候、
一当国（但馬）事、依御下国、宵田・西下心持相替、手前可然
様、取成存候、氷尾山通路事、剰度々（剰カ）雖被申候、以
申談筋目、于今差留候、最前如申理候、此方手前依
方々相支、不覃行候、可預其御意得候、
一信長（織田）江従出石・竹田、連々依為懇望、惟任日向守（明智光秀）至
丹波乱入候、即荻悪（荻野直正）自竹田表被引退、被楯籠黒井城（丹波国氷上郡）
候、於彼城之廻、十二三ヶ所被付置相陣候、此内近
者城々尾崎一陣被執堅（取固）候、兵粮等不可相続候間、来
春者可為一途様、風聞候、丹波国衆過半、無残所惟（明智光秀）
日一味候、
一信長去月十三日上洛候、大坂半（石山本願寺）相調、今月十三日帰
国候、
一武田四郎（勝頼）方至飛驒、出勢風聞候、遠国事候間、取儀
者不存候、内々其聞候、
一播州事、池田信濃守（荒木村重）、宗景（浦上）江兵粮少々被指籠、十月
五日被打入候、信長在京付而、屋形（山名祐豊）龍野御着、宗景・
三木（別所長治）其外為礼、上洛候、
一於田結庄（但馬国城崎郡）表、垣駿（垣屋豊続）被及一戦、被得勝利候間、海老手
之城、于今無異儀被持之候、不可有御気遣候、
一被対此方、山鹿（山中幸盛）儀者不及申、宵田・西下・立源太（立原久綱）可
有存分之様、雖風聞候、只今迄者、珍儀無之候、自
然於必定者、自是可申候、
一当国（但馬）、為無事取扱、自信長以朱印、従惟日（明智光秀）被差越使
候、強而於被申者、宵田・城崎・田結庄・西下難被
背候間、可相整候哉、
一鹿介（山中幸盛）其方不被相捨懇望由候、如何被成御返答候乎、
相替御思案候者、預り知、可成其意候、
一来春者、可有御上候哉、於其分者、若桜（因幡国）儀不可有程
候歟、迎御懇儀候間、御心底通、無御隔心、於被仰
越者、弥可為本望候、尤態雖可申入候、以好便令啓
候、旁以御返酬奉待候、恐々謹言

（天正三年）十一月廿四日　　豊信（花押）

吉川駿河守（元春）殿
御宿所

「八木但馬守」（押紙）

・天正 8 年（1580）7 月 23 日付け斎藤利三下知状（「白毫寺文書」、『兵庫県史史料編３』より転載）
（書き下し）白毫寺へ還住の衆僧、当陣人足の儀、用捨せしめ候いおわんぬ。其の意を成すべく候也。
・（天正 12 年（1584））4 月 5 日付け某宛羽柴秀吉朱印状写（『豊臣秀吉文書集２』吉川弘文館より転載）

（書き下し）書状披見し候。仍て黒井古城へ牢人共取り上り候処に、亀山留守し候者と相談し、八上表に至り相越し候処に、則ち逃散し候由に候。この間、陣を寄せしむる在所これあるべく候間、よくよく相改め申し越さるべく候。はたまたこの表のこと、いよいよ丈夫に申し付け候間、気遣いあるべからず候。なお追々申すべく候。恐々謹言。

（現代語訳）書状を拝見しました。黒井古城へ牢人らが登って立て籠もったのに対し、亀山城（亀岡市）の留守を預かっている者と相談して八上方面まで出撃したら、たちまち黒井古城の敵たちは逃げていったとのことですね。この間に敵が陣を置いて滞在している地域があるはずですから、よくよく調査して報告しなさい。さて、こちらの方面（小牧・長久手合戦）については、軍勢にしっかりと命じて万全ですので、お気遣いには及びません。詳しくは追々申します。恐々謹言。

二　斎藤利三下知状（折紙）

白毫寺へ還住之衆僧、当陣人足之儀、令用捨候畢、可成其意候也、

天正八
七月廿三日　　内蔵（斎藤）利三（花押）

門前
地下中

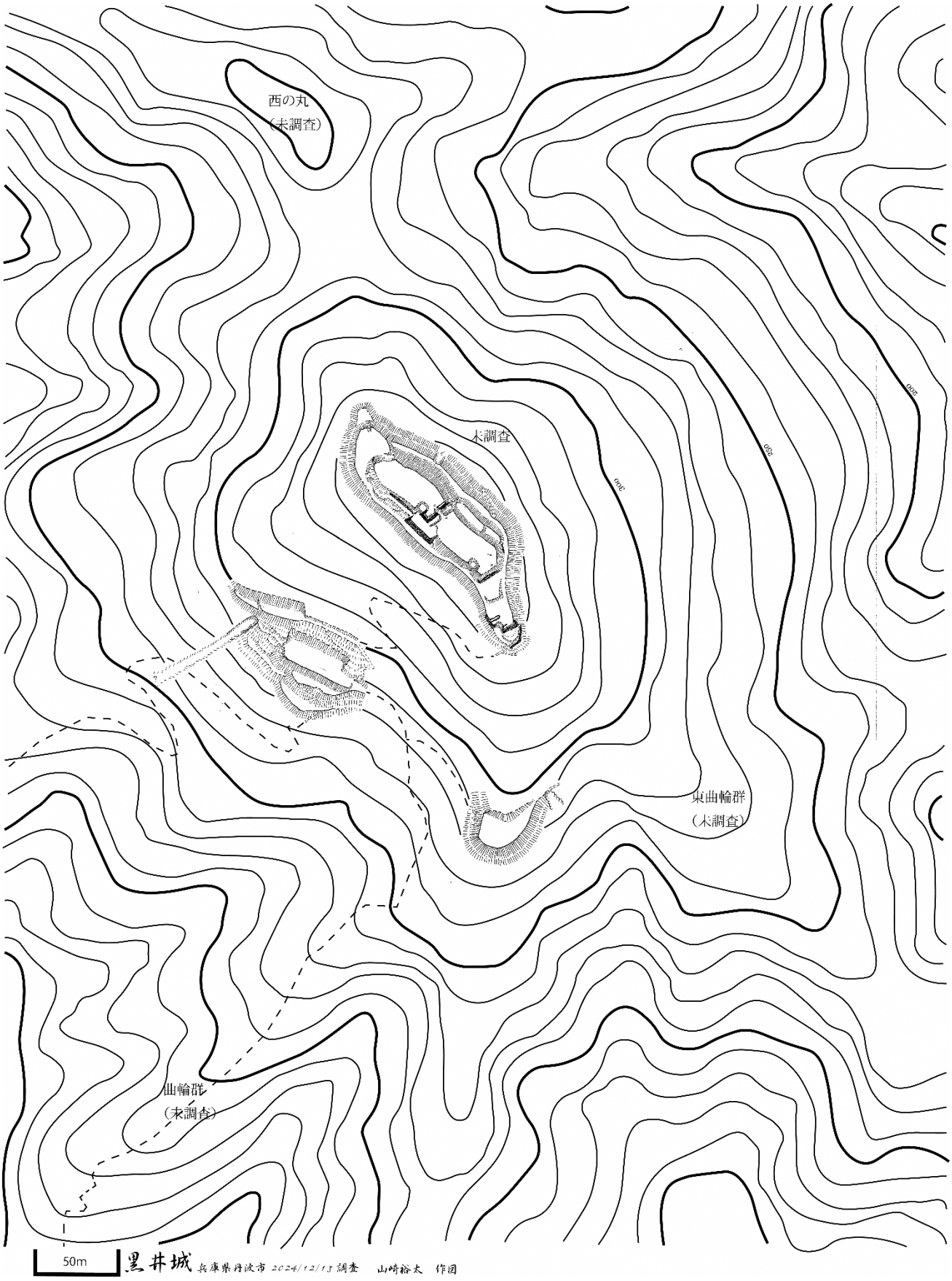
一〇三　某宛朱印状「加舎文書」東大史影写

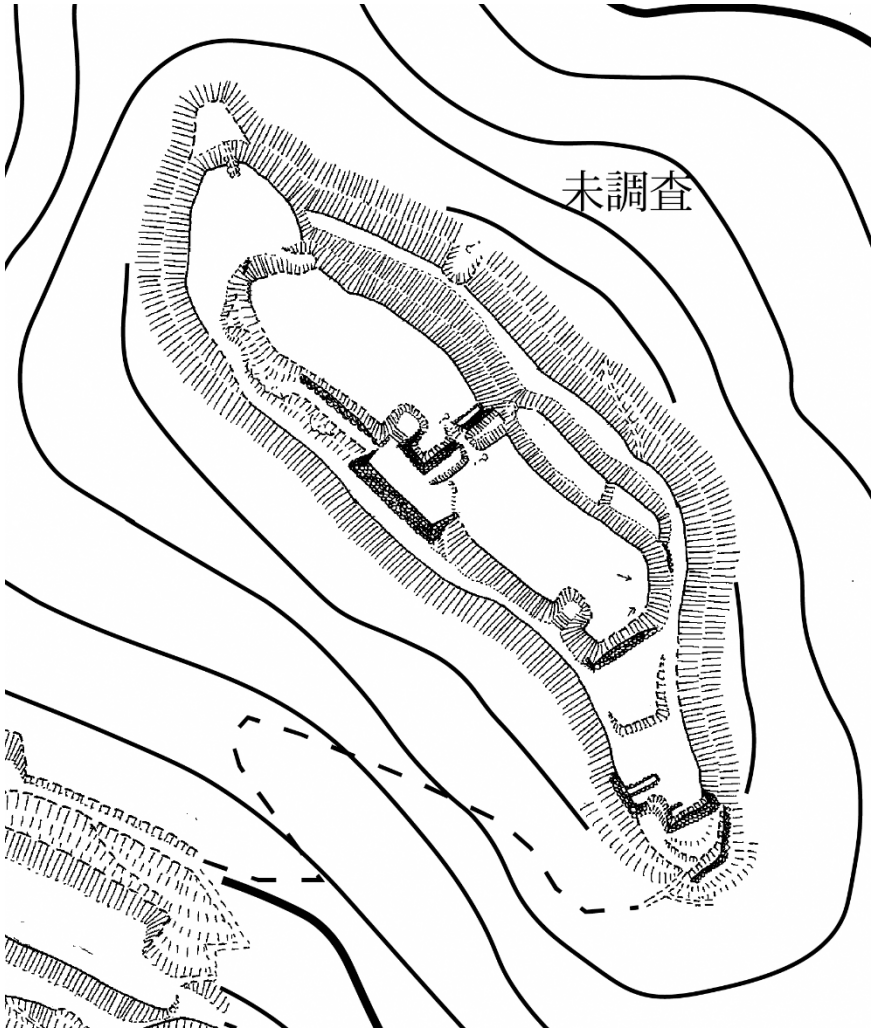
書状披見候、仍黒井古城（丹波国、以下同国）へ牢人共取上候処ニ、亀山留守候者相談、至八上表相越候処ニ、則逃散候由候、此間令陣寄在所可在之候間、能々相改可被申越候、将亦此表事、弥丈夫ニ申付候間、不可有気遣候、尚追々可申候、恐々謹言、

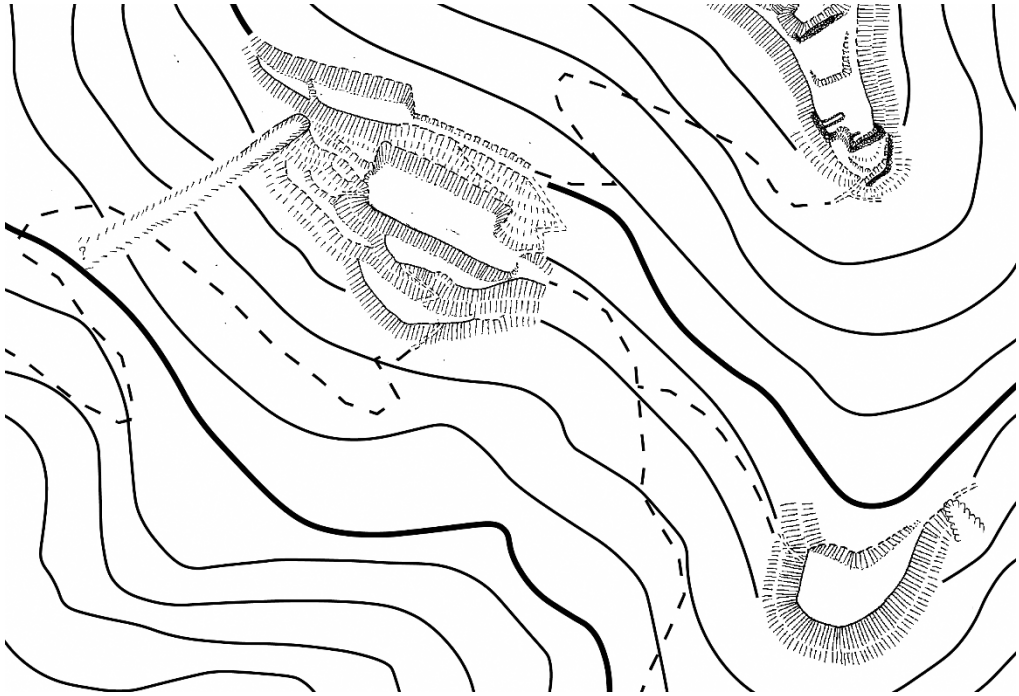
筑前守
秀吉（朱印）

（天正十二年）卯月五日
□（西蔵カ）

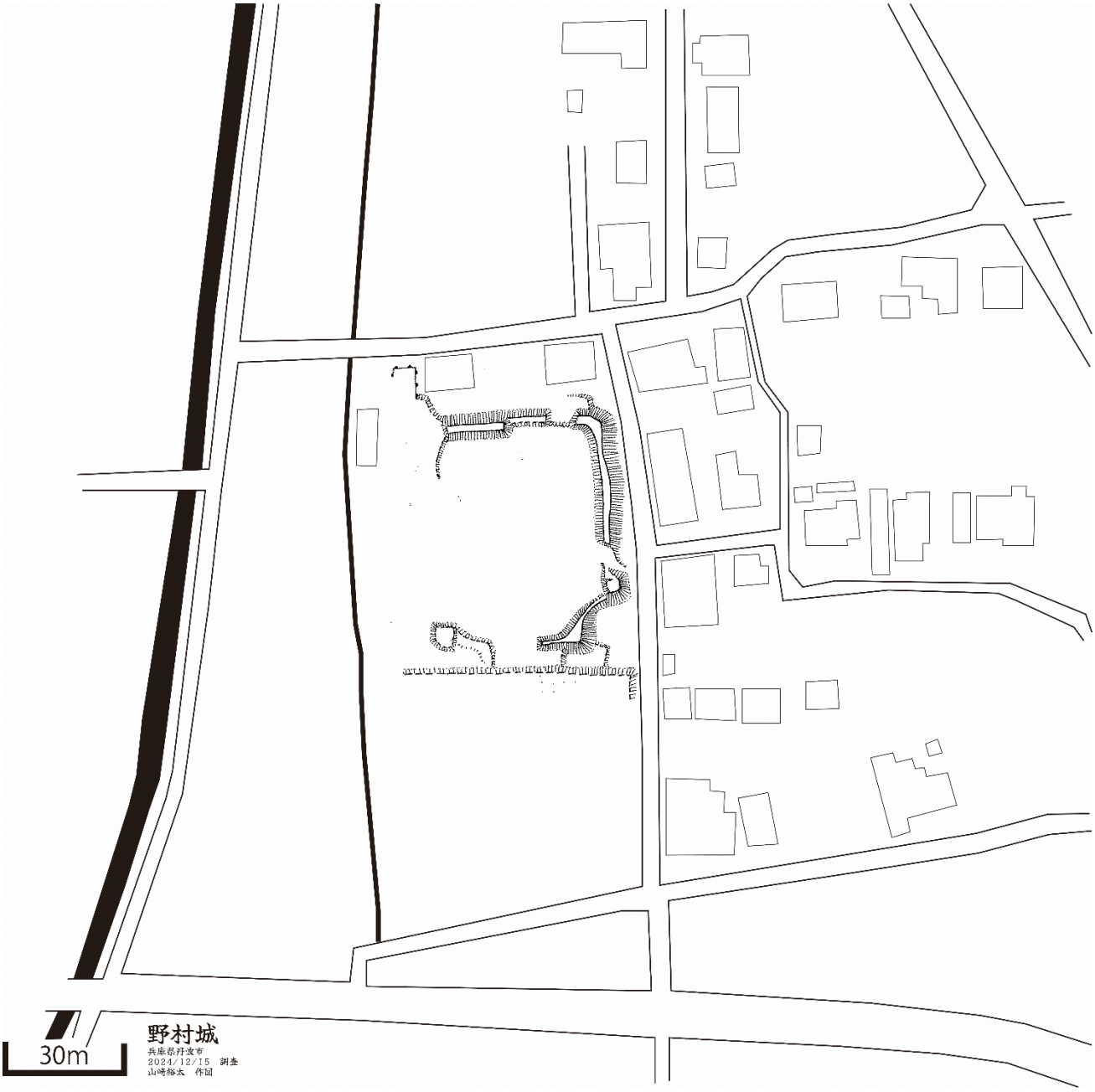
○黒井城縄張図

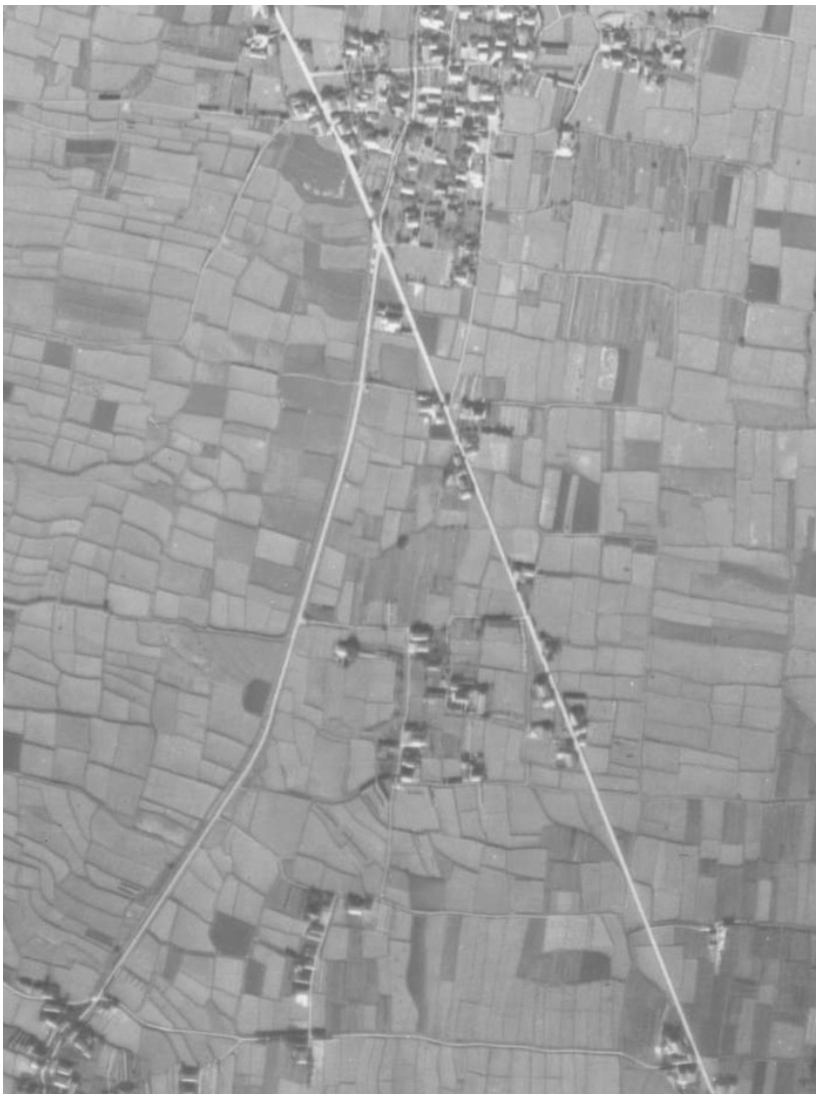

西の丸
（未調査）
未調査
300
250
200
東曲輪群
（未調査）
曲輪群
（未調査）
50m
黒井城 兵庫県丹波市 2024/12/15 調査　山崎裕太　作図


未調査



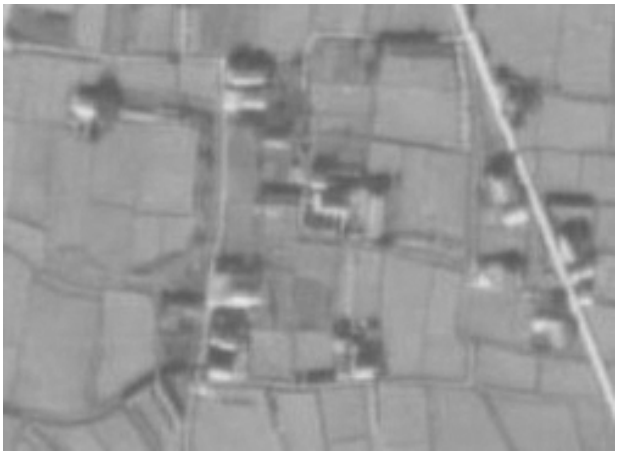
○野村城

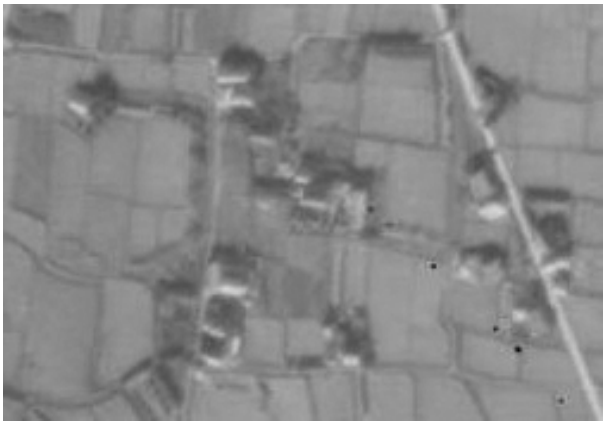




1947年11月1日撮影米軍空中写真
(https://mapps.gsi.go.jp/maplibSearch.do?specificationId=1181558)

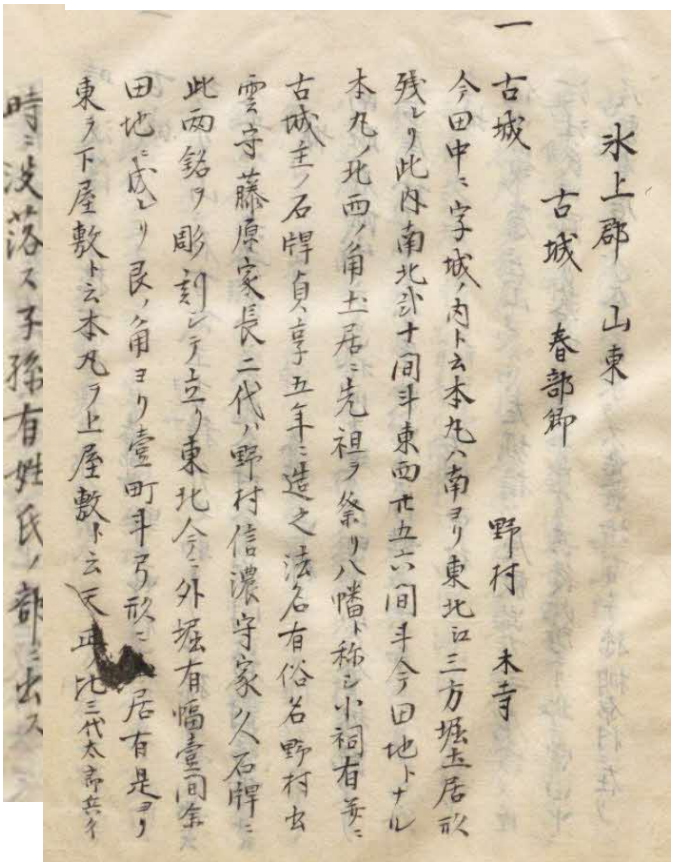
・空中写真の実体（立体）視





(左：同上、右：1947年11月1日撮影米軍空中写真)
(https://mapps.gsi.go.jp/maplibSearch.do?specificationId=1181557)

・「丹波志」巻 26（内閣文庫本、国立公文書館デジタルアーカイブより転載）
(https://www.digital.archives.go.jp/img/4158215)


氷上郡　山東
古城　春部郷
一　古城　野村　木寺
今田中ニ字城ノ内トヽ本丸ハ南ヨリ東北ニ三方堀ニ居ル
残リ此内南北ニ十間斗東西ニ五六間斗今ヲ田地トナル
本丸ノ北西ノ角ニ居ニ先祖ヲ祭リ八幡ト称シ小祠有ヲ
古城主ノ石牌貞享五年ニ造之法名有俗名野村出
雲守藤原家長二代ハ野村信濃守家久石牌ニ
此両銘ヲ彫刻シテ立リ東北今ニ外堀有幅壹間余
田地ニ成リ艮ノ角ヨリ壹町斗弓形ニ居有是ヲ
東ヲ下屋敷トヽ本丸ヲ上屋敷トヽ
時ニ波落ス子孫有姓氏ノ部ニ出ス

・野村家長・家久の城。
・東北に外堀があり、艮＝東北角より 1 町ほど弓形に土居があり、この東が下屋敷。
・現存する地点は上屋敷という。

→空中写真の実体視から約 70m四方の方形区画を見出せる。
土塁の櫓台状部分の塁線の折りと下屋敷の方形区画の南辺はラインが対応。
集落から離れた立地？（村絵図/集落田畠の灌漑用水と城の堀との関係がわかるといいが･･･）

→方形の曲輪が並列する構造。現存遺構や通称地名からは上屋敷が中心だが、本来は並列的性格では。
在地領主の方形居館なのか？ 黒井城をめぐる戦国期の戦乱の中で使用された可能性。

〇丹波市の地籍図の閲覧「地番家屋図と古図（旧字限図）の閲覧及び取得の方法について」
(https://www.city.tamba.lg.jp/soshiki/zemuka/gyomuannai/2/3/2309.html)

参考文献

・金子拓『信長家臣明智光秀』（平凡社新書、2019 年）
・柴裕之編『シリーズ・織豊大名の研究 8　明智光秀』（戎光祥出版、2019 年）
・高橋成計『図説日本の城郭シリーズ 13 明智光秀の城郭と合戦』（戎光祥出版、2019 年）
・福島克彦『明智光秀』（中公新書、2020 年）
・藤田達生・福島克彦編『史料で読む戦国史 3　明智光秀』（八木書店、2014 年）
・『兵庫県の中世城館・荘園遺跡　兵庫県中世城館・荘園遺跡緊急調査報告』（兵庫県教育委員会、1982 年）